



取組

水中ドローンの製作



飛躍的に進む自動造作技術を学ぶため、3Dプリンターを導入。水中ドローンの製作をテーマに、試作を繰り返し機器やデータの扱い方に慣れることで、デジタル技術に対応できる人材育成を目指す。

解析技術との接触

水中ドローンを実作する過程で設計作業に触れ、モノの本質をとらえる力をつけるとともに、解析ツールを用いて最適解を求めるプロセスを学び、主体的なデジタルツールの活用へ導く。



ドローンによる水中調査



完成した水中ドローンを使用し、本校が行っている養殖蠣の筏周辺と自然のままの海中および海底の違いを調査する。調査結果より、適切な筏の設置場所の考察や移設時期などについて検討し、海洋に関する知見の深化を図る。

データ集積による可能性を知る

学校近海の海底や海藻などの時間経過による変化を、水中ドローンによって観察。取得したデータを集約・体系化、近年の気候変動とも絡めて考察を行う。今後の起こりうる変動を予測する力を養うとともに、想定外の出来事への対応力向上も期待したい。



育成する生徒像・取組による効果



デジタル技術を活用できる範囲が検討でき、進んで課題解決に役立てることができる生徒

情報Ⅱの内容を含むことにより指導内容を充実させた職業系の教科・科目の履修率 (令和10年度目標値 100%)

大学理系学部進学率の増加 (令和10年度目標値 5%)



画像の一部はCanvaで生成したイメージ